NIE実践報告

1．タイトル：☆新聞を活用した話すこと・聞くことの指導の在り方

2．学校名

岐阜県岐阜聖徳学園大学附属小学校

3．実践者名（代表者名）

小林永児

4．学年

第6学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

国語　話すこと・聞くこと　30人

6．単元（本時の学習課題）名

テーマに沿ったニュースを選んで相手に伝わるように紹介しよう

7．目標(狙い)

新聞を資料として活用し、相手に分かるように話し方を工夫しながら伝えるようにする。

8．評価の視点

新聞から身の回りの出来事について関心を持ち、伝えたいことを決めて話し方を工夫し話すことができたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

ニュースを紹介しよう（3時間）

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

（単元計画）
①新聞を読んで、そこから記事を抜き出して内容を理解する。（1時間）
②話の構成を考えるために文章化し、話す練習をする。（1時間）
③グループやクラスに新聞記事を発表する。（1時間　本時）

（留意点）
・新聞記事を相手に紹介するという場を設定し記事を選ぶようにする。
・「喜怒哀楽」をテーマに毎回違った視点で新聞を見つめるようにする。
・話を構成していく力を付けるために段階をおって内容を充実させる。
・記事の紹介→ 記事の詳しい内容→記事の感想（テーマに沿って考えさせられたこと）
・個人練習、ペア練習、全体と話す場の設定をして、より聞き手に伝わるようにする。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

もともと話をすることが苦手で、特に自分の意見を述べることに関しては自信がなかったり聞き手にどんなリアクションがあるか心配だったりするため、なかなか大きな声で話をすることができないでいた。しかし、学習を通して新聞記事から考えたことを上手く伝えられそうだという自信が持て大きな声で話す姿がみられた。

12．成果と課題

新聞を活用しての話すこと・聞くことの指導を進めてきたが、子どもたちの実態からして新聞に対しての興味関心が強く、意欲的に学習を進めていくことができ、新聞を活用していくことは有効であると言える。
また、新聞の記事そのものが端的に分かりやすくまとめられているため、話すこと・聞くことの学習において非常に扱いやすい教材であることも分かった。そういった教材（新聞）をいかに利用していくかは、教師の提示の仕方や授業の展開の仕方で決まり、上記のような1時間の流れを仕組み展開をしていくことが今の段階では良いと考えている。